CFTC委員長、アルミ価格のミッドウェスト・プレミアムを見直すよう指示

見直しにより、ビールメーカーなど飲料メーカーの缶コスト、供給契約、ヘッジ戦略が変わる可能性がある

2026年11月16日（月）



Beer Business Dailyは11月16日（月）、米商品先物取引委員会（CFTC）のマイケル・セリグ委員長が、ミッドウェスト・プレミアムを含むアルミニウムの価格決定メカニズムの見直しを指示し、改革の選択肢を提示するよう求めたと報じた。

今回の動きは、ビールメーカーをはじめ、アルミニウムを大量に使用する企業が長年にわたって問題視してきた点に対応するものだ。ミッドウェスト・プレミアムは、北米への金属の配送コストを反映するため、基準となるアルミニウム価格に一般的に上乗せされる料金である。実際には、多くの現物供給契約でアルミニウムの購入価格を左右する重要な要素となっており、飲料缶に使われる金属もその対象に含まれる。

ビールメーカーにとって、この問題は商品市場の仕組みだけにとどまらない。アルミニウムは主要な包装コストであり、とりわけ缶への依存度が高いメーカーにとって影響が大きい。プレミアムの算定方法や適用方法が変われば、ビール、缶入りカクテルなど、アルミ包装を使う飲料業界全体で、

将来的に缶のコスト、調達契約、ヘッジ戦略に影響が及ぶ可能性がある。

Beer Business Dailyによると、セリグ氏はBeer Instituteの年次総会でこの問題に言及した。同紙は、今回の動きを、ビールメーカーやその他の産業用購入者が何十年も議論してきたものの、ほとんど進展がなかった問題における大きな転換と位置付けた。また、Beer Business Dailyは、Beer Instituteの長年にわたる法務顧問、メアリー・ジェーン・ソーンダース氏が、セリグ氏の発言を受けて「私たちにとって大きな意味がある」と述べたと報じた。

Beer Instituteは長年、このプレミアムによって、アルミニウムの製造や消費に関する基本的な経済要因とは必ずしも結び付かない形で、ビールメーカーのコストが押し上げられていると主張してきた。価格決定システムへの批判派は、このプレミアムが金属そのものの足元の需給だけでなく、倉庫保管、物流、資金調達環境、市場構造などの要因にも左右される可能性があると指摘している。アルミニウム価格の上昇時には包装コストが急速に変動し、大手メーカーは数カ月先を見越して缶を購入し、価格変動リスクをヘッジすることが多いため、こうした指摘はビールメーカーにとって重要だ。

CFTCの役割が重要なのは、アルミニウム価格のリスク管理に先物や関連契約がよく使われる米国のデリバティブ市場を同委員会が監督しているためだ。同委員会主導の見直しでは、参照価格の形成方法、市場参加者による契約での利用方法、また価格決定システムの一部が実体経済でアルミニウムを使う企業にゆがみをもたらしているかどうかに焦点が当たる可能性がある。Beer Business Dailyの報道では、見直しの日程や、改革案がどのような形を取る可能性があるかについては明らかにされていない。

限られた技術的な変更でも広範な影響を及ぼし得るため、飲料メーカーにとってはこの不透明さが重要だ。ビールメーカーなどの飲料メーカーは、缶をスポット価格だけで購入しているわけではない。多くは、何らかの形で広く認知されたアルミニウム価格指標に連動する長期供給契約や缶メーカーとの取引、ヘッジプログラムを利用している。ミッドウェスト・プレミアムが変わっても、影響が直ちに一律に現れるとは限らないが、供給業者による缶の価格設定や、飲料メーカーの金属コスト変動リスクの管理方法に影響する可能性がある。

この問題は、貿易制限や供給の混乱、物流の逼迫によって米国のアルミニウムコストが世界の基準価格を上回った時期を中心に、これまでもワシントンで注目を集めてきた。メーカーにとって、こうしたコスト上昇は吸収が難しい場合があり、とりわけ生産量が多く利益率が低い業種では負担となる。ビール業界では包装費が製品単位当たりのコストに占める割合が大きいため、アルミニウム価格の小幅な変動でも、数百万缶に及べば大きな影響になり得る。

セリグ氏の発言からは、ビールメーカーがこれまで経験してきた以上に、CFTCのトップがこの問題を直接取り上げていることがうかがえる。それが正式な規則制定や市場調査、価格決定慣行の変更に関する提言につながるかどうかは、まだ明らかでない。ビールメーカーや缶メーカー、その他の飲料メーカーにとって、今回の見直しにより、アルミニウム市場に組み込まれた長年議論の的となってきたコストが、規制当局によるより詳細な検証の対象となる可能性が開かれた。